近年における治山事業の取組

地域の安全・安心の確保に向けた治山事業の推進

四国森林管理局における治山事業は、治山ダム工事、地すべり防止工事、森林整備事業等を通じて国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、保健休養の場の提供等の公益的機能の高度発揮に努めています。

また、近年では、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林とのふれあい等の推進の観点から様々な事業を進めています。

○国有林野内での治山

【山地災害の防止・復旧】

四国は、台風や集中豪雨の常襲地帯でもあります。このため、山崩れなどの災害防止や復旧のためのダム工や山腹工を実施しています。

また、平成十八年度から国有林と民有林が連携し効果的な国土保全対策を推進するための「特定流域総合治山事業」（高知県土佐清水市、香川県観音寺市、愛媛県今治市）を実施しています。

災害発生直後の状況

災害復旧後の状況

特定流域総合治山事業

【国土の保全と水源のかん養】

局管内の国有林は、急峻な地形のうえ、ダム上流等の重要な水源地域にあります。このため、周辺地域の森林整備等と一体的な治山工事を実施することで、国土の保全と保安林機能維持増進に努めています。

【地球温暖化の防止】

地球温暖化を防止するためには、森林整備等による森林の機能を持続的に確保されることが必要です。また、二酸化炭素の固定に資する観点から、治山ダム工事等において、木材・木製品の使用を積極的に推進しています。

森林整備事業

【保健休養の場の提供】

局管内には数多くの安らぎの場を与えてくれる保安林（保健保安林等）があります。これらの保安林の機能を維持するために景観と生物多様性等に配慮した整備を実施しています。

保健休養の場の提供

木製治山ダム

○民有林野内での治山

【安全で安心して暮らせる国土づくり】

民有林野内で発生した大規模な土砂崩れや地すべりについても、治山事業（民有林直轄治山・直轄地すべり防止事業）を実施しています。

この事業は、昭和二十年代後半から実施され、徳島県（三好市、美馬市、那賀町）、高知県（大豊町、大川村）において、地域住民の方が安全で安心して暮らせる国土づくりに寄与しています。

地すべり防止事業（アンカー工）

平成二十年度については、徳島県那賀郡那賀町阿津江地区において、新たに民有林直轄地すべり防止事業に着手しています。

阿津江地区新規着手箇所

国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

〈企画調整室〉

一月十六日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。会議には管内七署（所）の有志協議会の代表世話人である市町村長、中山局長をはじめとする局幹部、林野庁から須藤管理課長、中山水源地治山対策室長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議事進行により、「美しい森林づくり国民運動」をテーマに意見交換を行いました。

代表世話人からは、各有志協議会での議論を踏まえ、

挨拶する中山局長

○「美しい森林づくり推進国民運動」について、まだまだ周知が行き届いていないのが現状であり、ＰＲ活動をはじめ、研修やボランティア活動等の推進が必要である。

○美しい森林づくりを推進していくためには、都会の人が山村滞在型の体験等をする機会を増やすことが大切である。

○森林・林業関係者以外の方々にも間伐等の森林整備がなぜ必要なのかを訴えるべきである。

○材価の低迷を原因とした森林所有者の施業意欲の減退や山村地域の過疎化に伴う担い手不足等の問題を早急に解決しなければ、美しい森林づくりも理念だけに終ってしまう。

○間伐の推進のためにも国の交付金の仕組みを使い易いものとしていくなど制度の拡充をお願いしたい。

○森林の持つ環境保全、国土保全の役割が正当に評価されるべきであり、環境税を導入することが必要である。

○健全な森林を維持するためには、ニホンジカによる食害等の獣害への抜本的対策が必要である。

など、熱心な意見・提言がありました。森林管理局としても、こうした意見を踏まえ、今後とも、「美しい森林づくり」に取り組んで参ります。

シリーズ7　ようこそ安芸森林管理署へ

表情豊かな天然杉群
段ノ谷山から野根山街道

当署の東部には、東洋町から奈半利町まで山の尾根を通る、土佐藩が参勤交代の道として利用したことでも有名な、野根山街道があります。

その周辺は、風景林に指定され、道中に関所跡等数々の名所、史跡、伝説などがあり、ハイキングコースとして利用されています。野根山街道の登山口は、歩く距離、コースにより、四郎ヶ野峠、蛇谷、段、白石神社があり、それぞれの登山口からは、異なる森林の風情を楽しみながら登っていけます。

今回は、特に段登山口から

仁王杉

の歩道沿にあって、馬路村魚梁瀬千本山の魚梁瀬スギとはまた違った趣のある天然杉群を紹介します。

国道五五号線の佐喜浜橋分岐から室戸市市道を通って段林道入口まで約一三キロ、さらに段林道入口から約五キロのところに段登山口はあります。

登山口から野根山街道の地蔵峠までは約一、五キロ。天然杉群は、登山口から約三〇〇メートル歩いたところから出現します。

この天然杉のプロフィールは、林齢約一二〇年、二～四又に分かれたり地際から太い枝

サイ杉

がでたり、千本山で見られる通直な魚梁瀬スギと比べると、表情の違いは一目瞭然です。

この天然杉についている名前は、昭和六十三年当時、佐喜浜担当区事務所（現野根森林事務所）の主任（現森林官）が調査中に名付けたもので公式な名称ではありません。仁王杉、大魔王杉、サイ杉、火炎杉、オンブ杉など二十九本あり、それぞれ非常に的をえた名前だと思います。ぜひ天然杉の表情を楽しみながら、野根山街道を訪れてみませんか。

なお、林道入口にはゲートがあります。現地へ行かれる場合は、事前に安芸森林管理署、または野根森林事務所にご連絡下さい。

今回紹介しました、段ノ谷山天然杉群のガイドマップを近日中に作成の予定です。

火炎杉

シリーズ103

地域の声

「四万十川フィールドワーク　七年目を迎えて」

神奈川学園高校
教諭　藤崎　洋子

神奈川学園高校は神奈川県横浜市の私立中高一貫校で、全校生徒およそ一二〇〇人の女子校です。

場所は横浜駅から徒歩十分のところにあり、交通の便はたいへんよいところです。

本校のフィールドワーク（ＦＷ）は二〇〇二年のカリキュラム改変に伴って今までの高二における修学旅行から大きくその内容を変えた行事です。その中味は「総合」の授業です。

本校では「自ら学ぶ」ことを主眼としているため「なぜ自分はその地域を選び、そこで何を学ぼうとしているのか」をレポートに書き、提出させることから始まります。地域は「京都・奈良」「水俣」「四万十川」「沖縄」の四方面でそれぞれのテーマは「日本の文化」「環境」「平和学習」に分かれています。四万十川方面に与えられているメインテーマは環境です。

多くの学校で行われている総合と少し違うのは、教科と学年が一体になって授業を組み立て、生徒一人一人のテーマに沿ってレポートが書けるよう指導していくことです。そのためＦＷの授業のねらいをどのように置くかが、毎年頭を悩ませるところです。

今年度の四万十川ＦＷのねらいは次のようにしました。

『「人と自然はどのように共生していくか」を今まだ清流が保たれている四万十川を中心に考えていく。高度経済成長期、便利さ経済的な豊かさと引き換えに失った自然をどう取り戻していくかが課題となる。

四万十川は人が入らない自然のままではなく、里山であることを確認し、その里山が日本人の原風景であるがゆえに懐かしさを感じることを認識する。里山の保全は人が管理しなければ維持できない。そのため四万十川に行って「自然が残っていて楽しかった」ではなく、自分の流域の自然とどう付き合うべきかを考える授業としたい。

そこで関東地方で唯一残された森、川、海がひとつながりの生態系を持つ小網代を授業の最初に学習し、また都市河川の唯一の浄化法として下水処理場の見学、環境測定について科学的なものの見方を学習していく。その後高度経済成長と公害問題の関係を社会科学的に解析し、現地四万十川をその地理的特性から人の生活と地理がどう結びついているかを学習する。現地ではその地に生活している人たちから過疎の問題をどう解消していくか、環境を改善していくために何をしていくべきかを学ぶ。』（四万十川ＦＷ通信「どんぶらこっこ」より）

このねらいに従って木曜日二時間の授業を組み立てていきました。授業は講演を聞いたり、ビデオを見たり、浄水場の見学や小網代の研修に参加したり、本を読んだ感想をまとめて次の授業で生徒の書いたものを教材にして教師がそれを発展させていくものです。夏休みは鶴見川ネットワークのボランティア活動に参加し、岸由二著「自然へのまなざし」笹山久三著「四万十川」を課題図書にしました。本はこの授業の基調を作るものとして重要だと思っています。そのため今年度は、冨山和子さんの著書をたくさん読ませました。特に冨山さんの「自然観」は高度経済成長期における日本を見直し、「第一次産業」を大切にする姿勢が今後の環境問題を解決していくひとつの鍵である、という考えが生徒の中によく据わっていきました。

そして十一月本番を迎え、現地の方々の熱い思いとその実践力に我々引率者はすべてをお任せしています。生徒たちは現地でさまざまな方達の生き方に触れ、自分にとって一生を変えるかもしれない出会いも生まれてきます。今年も同年代の中村高校、四万十高校の生徒さんたちとの出会いは都会に生きる生徒たちにとって大きな衝撃となりました。特に自分の生まれ育った地を大事にするその姿勢には大いに触発されて自分の今を振り返った子たちがたくさんいます。

また毎年お世話になる「四万十川森林環境保全ふれあいセンター」の皆様にはいつも充実した内容の実習をしていただき、本当に感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。